

環境報告書

2020



室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

国立大学法人 室蘭工業大学

目次

学長あいさつ	・ ・ ・ ・ 3
1 大学概要	・ ・ ・ ・ 4
2 環境に関する基本方針	・ ・ ・ ・ 11
3 環境マネジメントシステム	・ ・ 12
4 環境配慮実施計画	・ ・ ・ ・ 13
5 環境負荷実績	・ ・ ・ ・ 14
6 環境配慮活動	・ ・ ・ ・ 17
7 地域との連携	・ ・ ・ ・ 18
8 関係法令、環境規制への対応	・ ・ ・ 19



【報告の対象範囲】

対象範囲：室蘭工業大学(職員宿舎・明德寮・明凜館・留学生宿舎2は除く)

期間：2020年4月1日～2021年3月31日

学長あいさつ

室蘭工業大学は「地域貢献」を大きなキーワードとして掲げ、北海道の課題解決は日本のそして世界の課題解決につながると考えて、教育・大学改革に取り組んでいます。

本学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を生かして、産業界で活躍しつづける幅広い理工系人材を育てるべく教育改革を行い、工学部から理工学部へと大きく進化して、3年目となります。

ものごとの本質をつかみ、探究心を養うべく自然科学・理工学教育を全学的に充実させ、さらにICTやAIの本質を理解して使いこなし、もの・価値づくりに貢献できる学生諸君を育てる工業大学ならではの情報教育を推進しています。これにより、「確かな研究力をベースとした教育力」で北海道を世界水準の価値創造の場へと導くことを目指しています。

さて、近年では世界的にカーボンニュートラルを宣言する国々や企業が増えており、我が国でも2050年までにカーボンニュートラルを達成する方針を表明しました。この流れを受けて2021年7月には188の大学等が参加する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が地域の脱炭素化への貢献や産学官連携強化を目指す場として設立され、本学もこれに参加することとなりました。

この度、本学の環境に関する取組をまとめた環境報告書を作成しました。

本学では以前より環境に関する基本方針を定め、地球環境の維持・保全・改善に努めてまいりましたが、この環境報告書をご覧いただき、本学の活動についてのご理解を深めていただけると幸いです。

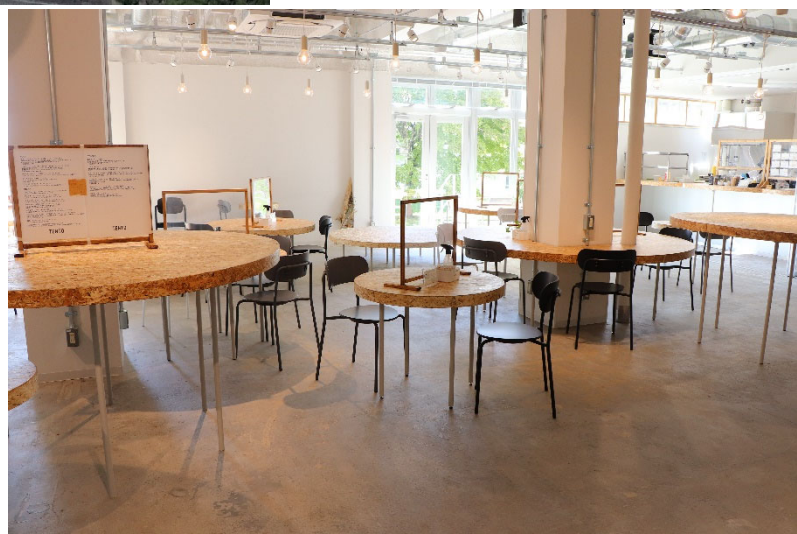


室蘭工業大学長
空閑良壽

1 大学概要

大学名 国立大学法人室蘭工業大学
所在地 〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番1号
敷地面積 214,838m²
延床面積 79,203m²
沿革 昭和24年5月 室蘭工業大学設立
平成16年4月 国立大学法人室蘭工業大学となる

※2021年（令和3年）5月1日現在



1 大学概要

室蘭工業大学の理念と目標

一創造的な科学技術で夢をかたちに一

理 念

室蘭工業大学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

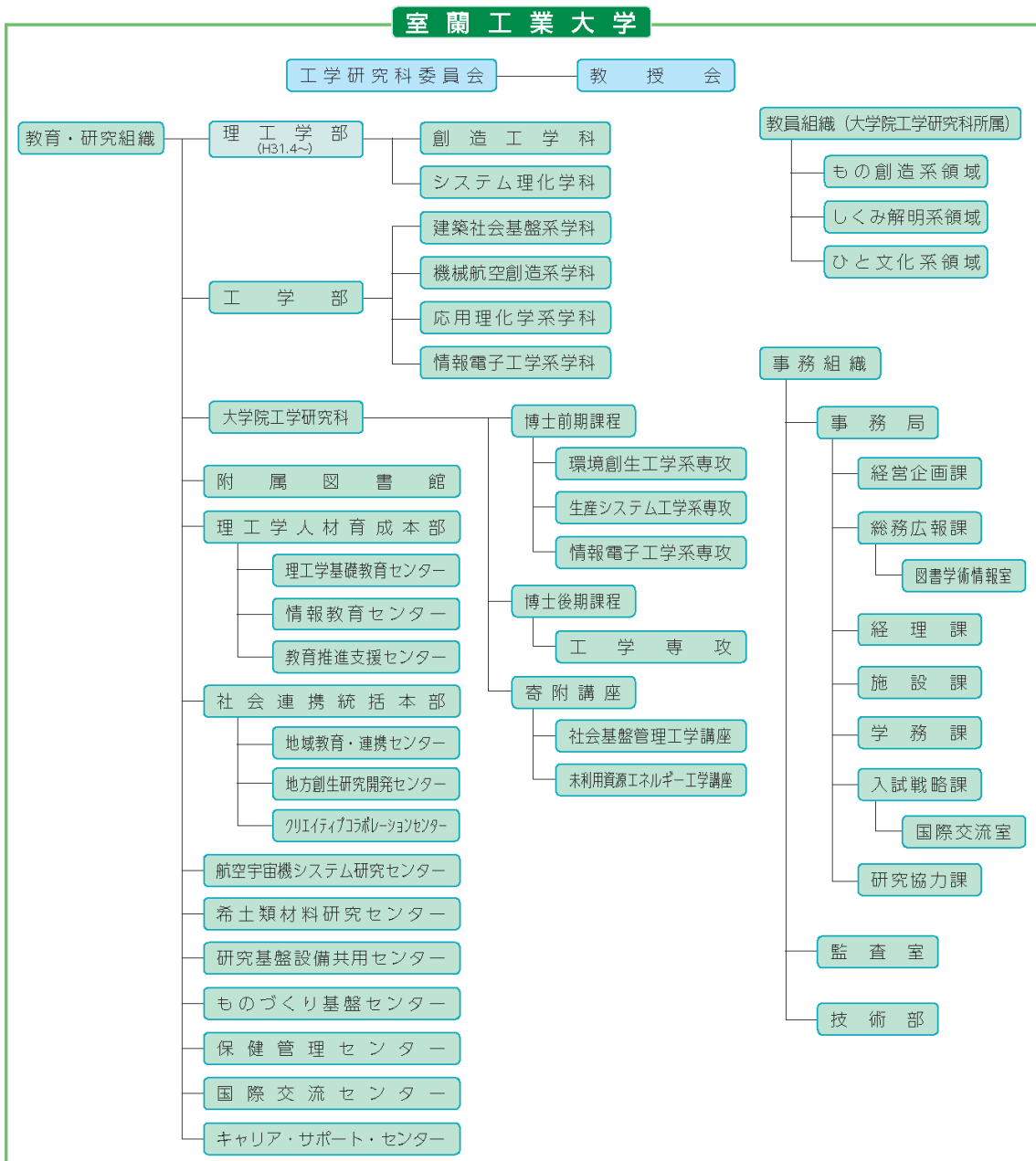
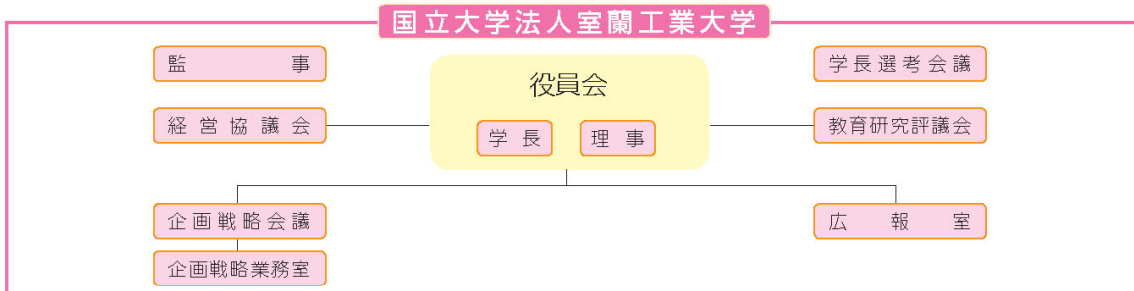
目 標

- 1 室蘭工業大学は、学生一人ひとりの多様な才能を伸ばし、幅広い教養と国際性、深い専門知識と創造性を養う教育を行います。
- 2 室蘭工業大学は、総合的な理工学に基づく教育を展開し、未来をひらく創造的な科学技術者を育成します。
- 3 室蘭工業大学は、真理の探究と創造的な研究活動を推進し、科学技術の発展に貢献します。
- 4 室蘭工業大学は、地球環境を慈しみ、科学技術と人間・社会・自然との調和を考えた研究を展開します。
- 5 室蘭工業大学は、学術研究の成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産官学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献します。
- 6 室蘭工業大学は、国際的な共同研究や学術交流を積極的に推進し、世界の発展に貢献します。
- 7 室蘭工業大学は、絶えざる発展を目指し、自主自律と自己責任の精神をもって大学運営にあたります。
- 8 室蘭工業大学は、開かれた大学として情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果たします。

1 大学概要

組織・機構

組織図



1 大学概要

● 役職員

● 役職員数 ●

■ 役員現員表

(令和3年5月1日現在)

部局	区分	学長	理事 常勤	理事 非常勤	監事 常勤	監事 非常勤	計
学	長	1					1
理	事		3				3
監	事					2	2
	計	1	3			2	6

■ 部局別現員表

(令和3年5月1日現在)

部局	区分	副学長・ センター長等	教授	准教授	講師	助教	小計	事務職員・ 技術職員等	計
副学長	学長	(4)					(4)		(4)
もの創造系領域			29	25	2	16	72		72
しくみ解明系領域			21	25		15	61		61
ひと文化系領域			8	15	4	2	29		29
附属図書館		(1)					(1)		(1)
保健管理センター		(1)					(1)	1	(1)
国際交流センター		(1)		(2)			(3)		(3)
キャリア・サポート・センター		(1)					(1)		(1)
航空宇宙機システム研究センター		(1)				(2)	(3)		(3)
ものづくり基盤センター		(1)					(1)		(1)
希土類材料研究センター		(1)	(1)	(1)		(1)	(4)		(4)
研究基盤設備共用センター		(1)					(1)		(1)
社会連携統括本部		(1)					(1)		(1)
地域教育・連携センター		(1)				(1)	(2)		(2)
地方創生研究開発センター		(1)		(1)			(2)		(2)
クリエイティブコラボレーションセンター		(1)		(1)		(1)	(3)		(3)
理工学人材育成本部		(1)					(1)		(1)
理工学基礎教育センター		(1)					(1)		(1)
教育推進支援センター		(1)					(1)		(1)
情報教育センター		(1)		(1)		(2)	(4)		(4)
技術部		(1)					(1)	22	22
事務局							(0)	78	78
	計	(21)	58 (1)	65 (6)	6 (0)	33 (7)	162 (35)	101	263 (35)

(注) () は兼務等を示す

■ 特任教員

(令和3年5月1日現在)

区分	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	計
特任教員	6	2	0	0	8

● 若手研究者等の採用 ●

(令和2年度)

区分	資格	採用者数
ティーチング・アシスタント(TA)	博士前期課程	458
リサーチ・アシスタント(RA)	博士後期課程	45
非常勤研究員	P D	3
客員教員	—	12
その他研究員	—	1
計	—	519

1 大学概要

学生状況

学生定員及び現員

理工学部・工学部

(令和3年5月1日現在)

学部	学 科 / コース		入学定員	編入学定員	総定員	現 員					学科計
						1年次	2年次	3年次	4年次	計	
理工学部	創造工学科	昼間コース	325	25	1,000	336 (46) 〈10〉	332 (39) 〈10〉	360 (50) 〈17〉	—	1,028 (135) 〈37〉	1,162 (148) 〈37〉
		夜間主コース	40	—	120	42 (5)	45 (4)	47 (4)	—	134 (13)	
	システム理化学科	昼間コース	235	15	720	243 (36) 〈2〉	252 (44) 〈9〉	260 (42) 〈9〉	—	755 (122) 〈20〉	755 (122) 〈20〉
工学部	建築社会基盤系学科	昼間コース	—	—	120	—	—	—	171 (26) 〈13〉	171 (26) 〈13〉	171 (26) 〈13〉
	機械航空創造系学科	昼間コース	—	—	150	—	—	—	190 (15) 〈10〉	190 (15) 〈10〉	221 (16) 〈10〉
		夜間主コース	—	—	20	—	—	—	31 (1)	31 (1)	
	応用理化学系学科	昼間コース	—	—	140	—	—	—	168 (40) 〈11〉	168 (40) 〈11〉	168 (40) 〈11〉
情報電子工学系学科	昼間コース	—	—	190	—	—	—	264 (20) 〈13〉	264 (20) 〈13〉	294 (23) 〈13〉	
	夜間主コース	—	—	20	—	—	—	30 (3)	30 (3)		
小 計		昼間コース	560	40	2,320	579 (82) 〈12〉	584 (83) 〈19〉	620 (92) 〈26〉	793 (101) 〈47〉	2,576 (358) 〈104〉	
		夜間主コース	40	—	160	42 (5)	45 (4)	47 (4)	61 (4)	195 (17)	
合 計			600	40	2,480	621 (87) 〈12〉	629 (87) 〈19〉	667 (96) 〈26〉	854 (105) 〈47〉	2,771 (375) 〈104〉	

(注) () 内の数字は女子で内数・〈 〉 内の数字は留学生で内数

(注) 平成31年4月学部改組

大学院工学研究科

(令和3年5月1日現在)

専 攻	入学定員	総定員	現 員				
			1年次	2年次	3年次	計	
博士前期課程	環境創生工学系専攻	73	146	80 (17) 〈6〉	85 (14) 〈7〉	—	165 (31) 〈13〉
	生産システム工学系専攻	84	168	84 (6) 〈3〉	79 (5) 〈5〉	—	163 (11) 〈8〉
	情報電子工学系専攻	67	134	77 (8) 〈11〉	72 (6) 〈14〉	—	149 (14) 〈25〉
	小 計	224	448	241 (31) 〈20〉	236 (25) 〈26〉	—	477 (56) 〈46〉
博士後期課程	工 学 専 攻	15	45	23 (3) 〈15〉	23 (6) 〈16〉	30 (8) 〈20〉	76 (17) 〈51〉
	小 計	15	45	23 (3) 〈15〉	23 (6) 〈16〉	30 (8) 〈20〉	76 (17) 〈51〉
合 計		239	493	264 (34) 〈35〉	259 (31) 〈42〉	30 (8) 〈20〉	553 (73) 〈97〉

(注) () 内の数字は女子で内数・〈 〉 内の数字は留学生で内数

(注) この他に19名が在籍 [科目等履修生3名 (うち特別聴講学生0名), 研究生16名 (うち特別研究学生1名)]

1 大学概要

● キャンパス配置図 ●



2 環境に関する基本方針

室蘭工業大学は、近くに支笏洞爺国立公園を擁し、ハヤブサが生息する地球岬やカタクリの自生地として知られる室蘭（鷲別）岳など、豊かな自然環境に恵まれた地域に位置します。

本学は「創造的な科学技術で夢をかたちに」という基本理念のもとに、自然を慈しみ、持続可能な循環型社会の構築を目指して、科学技術と人間・社会・自然の調和を追求する創造的な教育研究を行います。

〈方針〉

室蘭工業大学は、地球環境と研究の調和を追求し、学生、教職員、地域住民との協力により、地球環境を守る教育研究活動を推進します。

1. 循環型社会の構築を目指し、技術者倫理教育を積極的に実施し、社会的責任を自覚する人材を養成します。
2. 循環型社会を担う人材を養成するために、環境教育と環境活動を積極的に展開します。
3. 循環型社会の実現を目指し、環境マネジメントシステムの持続的、かつ継続的な改善を図ります。
4. 学生、教職員、並びに地域住民の環境意識を高め、地球環境の保全・改善活動に努めます。
5. 環境保全に関する法律、法規、規則、協定等を順守し、地球環境の維持・改善に努めます。
6. 環境に関する基本方針と環境活動をホームページに公開し、学生、教職員をはじめ、地域住民や地域社会へ公表します。

室蘭工業大学は、環境に関する基本方針を達成するために環境目的・目標を設定し学生、教職員、及び地域住民と協力して環境改善活動を展開し、地球環境の維持・保全・改善に努めます。

3 環境マネジメントシステム

3-1 北海道環境マネジメントシステムスタンダードの継続的認証取得

室蘭工業大学は、平成20年3月19日に、北海道における環境保全活動の取組と経営の安定を支援するためにつくられた環境規格である「北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）」ステップ1の認証を取得し、翌年平成21年3月23日にステップ2に移行し（※1）、以後継続して認証を取得し続けています。

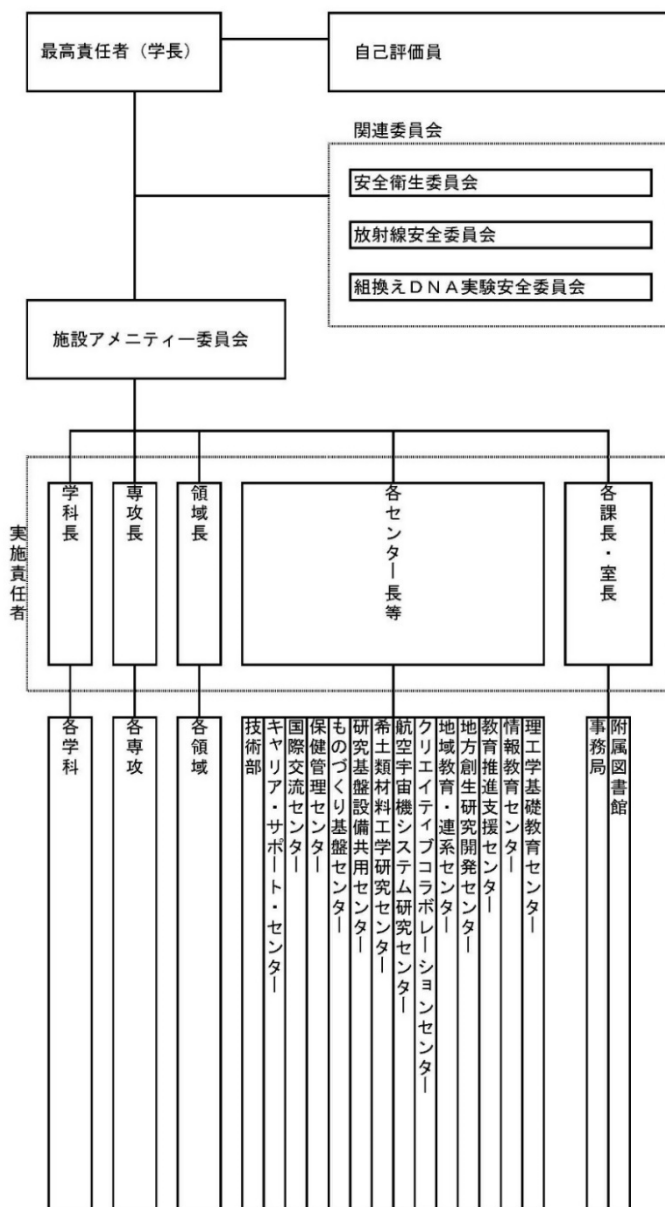
本学ではこの規格に則った環境マネジメントマニュアルを作成し、これを基に環境改善活動を継続しています。

- ※1
 ステップ1 環境問題についての取組が初めての組織向け。
 ステップ2 何らかの形で環境問題に取り組んでいる、又は将来ISO14001の認証取得を目指す組織向け。



3-2 環境マネジメントシステム体制図

室蘭工業大学では、最高責任者のもと、以下の体制で環境改善活動を行っています。



4 環境配慮実施計画

4-1 エネルギー使用量の削減

- ・エネルギー管理標準（※1）を制定（省エネルギーの数値目標を設定）
- ・エネルギー使用量原単位（※2）を前年度比1%削減
- ・省エネルギー型照明設備・空調設備等の導入を推進
- ・照明の適正化（照度、点灯時間の適正管理）を行う
- ・空調の適温化を行う
- ・本学HPで電力使用量を電力みえる化する（省電力の啓蒙）
- ・省エネパトロールの実施（講義室の照明・空調の適正使用の確認）

※1 エネルギー使用設備のエネルギー使用合理化のための管理要領（運転管理、計測・記録、保守・点検）を定めた「管理マニュアル」

※2 その年のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値

4-2 水使用量の節減

- ・節水型の家電製品・水洗トイレ等の導入
- ・蛇口に節水こまを設置
- ・トイレの蛇口を人感センサー式に更新

4-3 一般・産業廃棄物の管理

- ・一般ゴミの分別の徹底
- ・教育研究活動で発生する産業廃棄物を一般廃棄物と分離回収
- ・実験廃液、廃試薬の回収

4-4 紙使用量の削減

- ・ペーパーレス化の推進

4-5 環境に関連する教育・研究活動の推進

- ・2017(H29)～2019(R1)年度平均の環境関連授業時間数以上を維持する

5 環境負荷実績

5-1 エネルギー使用量

本学の年間エネルギー使用量は原油換算（※1）で2,000klを超えており、「第二種エネルギー管理指定工場」（※2）として国に指定されています。

その使用量は電力、ガス、重油、灯油の順で多く、過去5年間のそれぞれの使用量は下のとおりです。

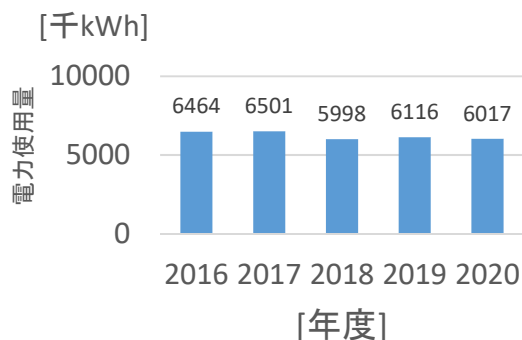
※1 エネルギー使用量(電気・ガス・重油・灯油)に換算係数を乗じて計算した熱量[GJ]を合算した合計使用熱量に原油換算係数0.0258[kl/GJ]を乗じたもの

※2 事業者が設置している工場等(大学では団地)のうち、年間エネルギー使用量の原油換算値が1,500kl以上3,000kl未満の工場等。エネルギー管理員等の選任や国に中長期計画書、定期報告書を毎年提出する義務がある

(1) 電力使用量

2020年度の電力使用量は前年度と比較して1.6%の減少となりました。理由としては建物の大規模改修による省エネ化や照明器具のLED化による消費電力の減少が考えられます。

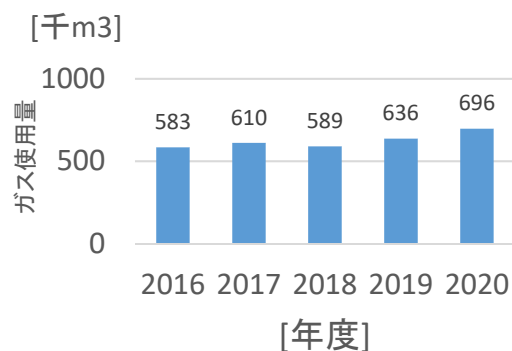
過去5年の推移をみると若干減少傾向にあります。



(2) ガス使用量

2020年度のガス使用量は前年度と比較して9.4%の増加となりました。理由として暖房期間において新型コロナウイルス感染症対策として積極的に換気したことにより暖房燃料消費量が多くなったことが考えられます。

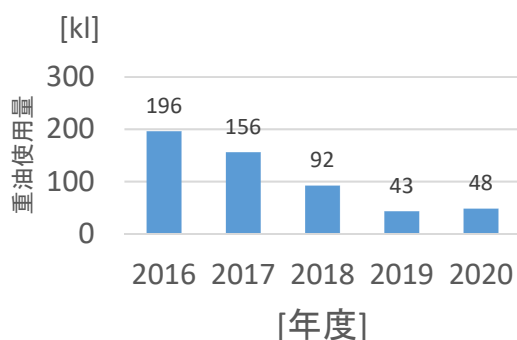
過去5年の推移を見ると増加傾向にあります。



(3) 重油使用量

2020年度の重油使用量は前年度と比較して11.6%の増加となりました。理由としてガスと同様、暖房期間において新型コロナウイルス感染症対策として積極的に換気したことにより暖房燃料消費量が多くなったことが考えられます。

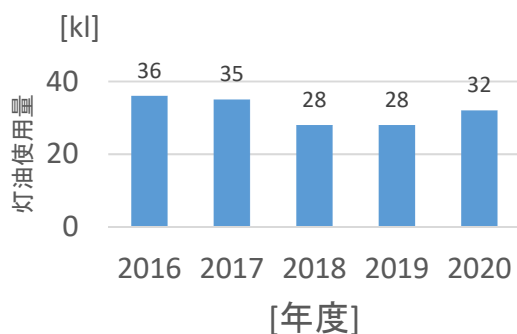
過去5年の推移を見ると大幅な減少傾向にあります。



(4) 灯油使用量

2020年度の灯油使用量は前年度と比較して14.2%の増加となりました。理由としてガス・重油と同様、暖房期間において新型コロナウイルス感染症対策として積極的に換気したことにより暖房燃料消費量が多くなったことが考えられます。

過去5年の推移をみると、若干減少傾向にあります。

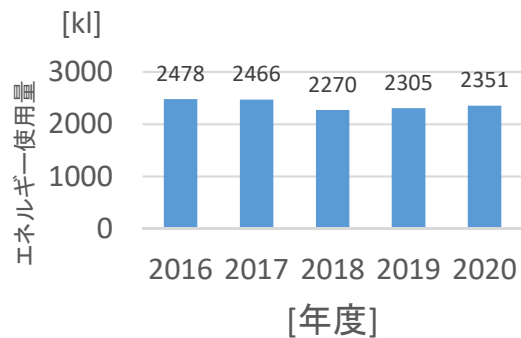


5 環境負荷実績

(5) エネルギー総使用量（原油換算値）

2020年度のエネルギー使用量（（1）から（4）の合計）の原油換算値は前年度と比較して2%増加しました。理由として暖房期間において新型コロナウイルス感染症対策として積極的に換気したことにより暖房燃料消費量が多くなったことが考えられます。

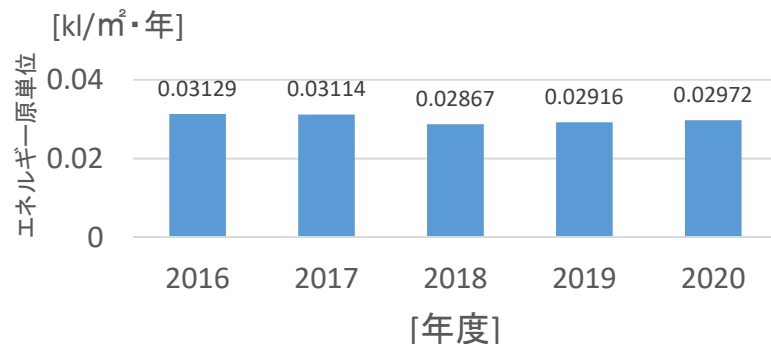
過去5年の推移を見ると若干減少傾向にあります。



5-2 エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、その年のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値となります。

過去5年間の推移をみると、相乗平均原単位変化（※1）が98.7%（電気需要平準化原単位変化98.8%）で推移しており、経済産業省で公表している「工場・事業場における省エネ法定報告に基づく事業者クラス分け評価（※2）の結果」に示すとおり、2020年度はS評価となりました。



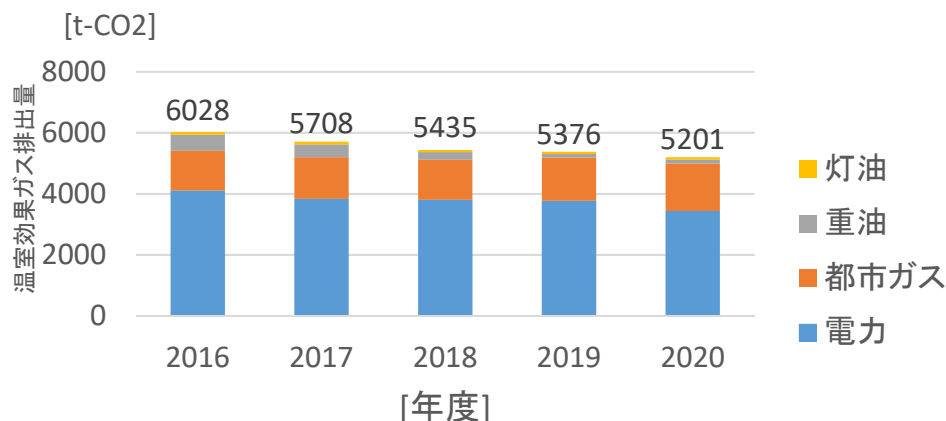
※1 各年の前年度比を掛けた数の累乗根
 ※2 省エネの定期報告書の内容によりS(優良事業者)・A(更なる努力が期待される事業者)・B(停滞事業者)・C(要注意事業者)の4段階にクラス分けして、クラスに応じてメリハリのある対応を実施するもの

5-3 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は5-1のエネルギー使用量に種類ごとの排出係数をかけた値となります。

2020年度は、前年度より3.3%減少しました。理由として電力のCO2排出係数が昨年より減少し、他のエネルギーの排出量の増加分より電気での減少分が上回ったためと考えられます。

過去5年間の推移をみると毎年前年度を下回っており、連続で削減を続けています。

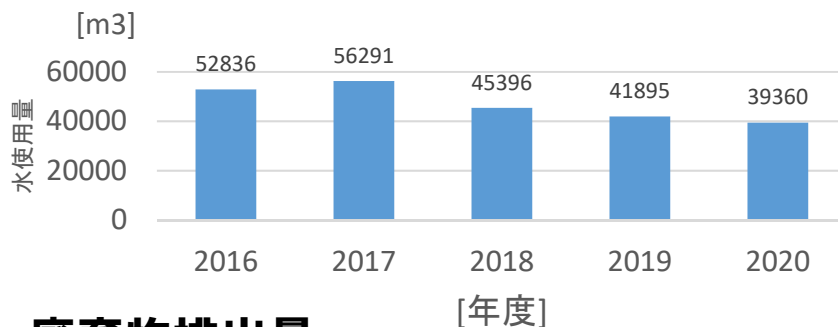


5 環境負荷実績

5-4 水使用量

2020年度の水使用量は、前年度より6.1%減少しました。理由として新型コロナウイルス感染症対策として授業をオンライン主体に行ったことにより大学に直接来る学生数が減少したためと考えられます。

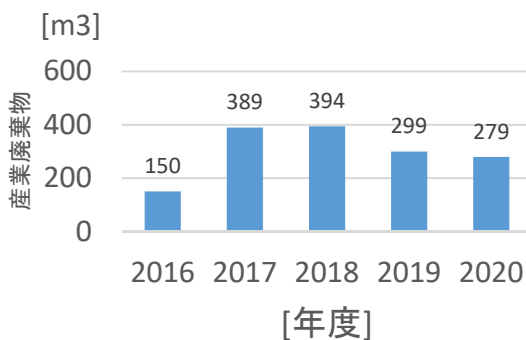
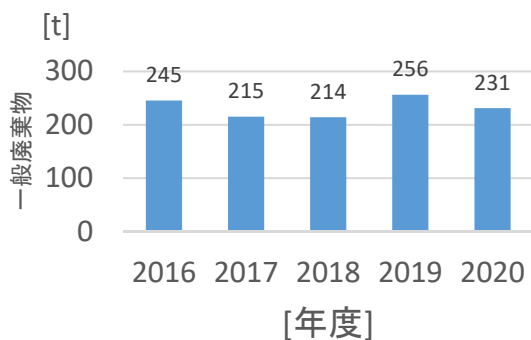
過去5年間の推移をみると、2017年度をピークに毎年減少しています。



5-5 廃棄物排出量

2020年度の廃棄物使用量は、一般廃棄物が前年度より10%減少し、産業廃棄物が前年度より6.7%減少しました。理由として新型コロナウイルス感染症対策として授業をオンライン主体に行ったことにより大学建物の利用者が減少したのと建物の改修工事による物品の廃棄が減少したためと考えられます。

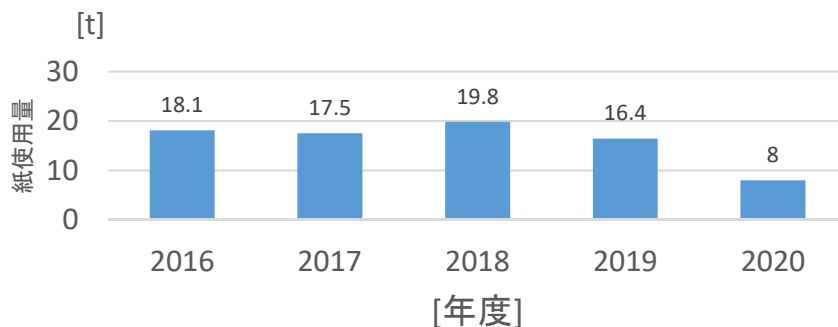
過去5年間の推移をみると、一般廃棄物は増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで産業廃棄物は2018年度をピークに減少しています。



5-6 紙使用量(OA用紙)

2020年度の紙使用量は、前年度より51%減少しました。理由として新型コロナウイルス感染症対策として授業をオンライン主体に行ったことにより大学に直接来る学生数が減少したためと考えられます。

過去5年間の推移をみると、2019年度までは増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで2020年度に大きく減少しています。



6 環境配慮活動

6-1 構内クリーン作戦の実施

室蘭工業大学では大学構内の空き缶、びん、ペットボトルその他のゴミ等の回収を行い、環境教育・環境美化の一環として、事務職員及び学生・教職員により「クリーン作戦」を実施しています。

2020年度は6月、9月、10月、11月および3月に行われました。多数の学生、教職員が参加し、事前に割り振られた担当エリアに分かれて行われました。

クリーン作戦の実施により、環境に関する具体的取組を知ることはもとより、環境改善活動を通じて教職員の役割と責任を認識してもらうことができました。



6-2 環境に配慮した施設整備の実施

教育・研究12号館・W棟LED改修

室蘭工業大学では省エネへの取組として、令和2年度は教育・研究12号館およびW棟（改修面積：2,709㎡）の照明器具をLED照明器具に改修しました。

これにより消費電力が約30%削減され、温室効果ガス排出量の削減、および古い蛍光管の処分費を削減することができました。

今後も計画的に学内の照明器具の更新を進めていきます。



教育・研究7号館空調改修

設置から20年経過し故障も頻繁に起きていた教育・研究7号館の空調設備について、複数年で順次改修する計画を立て、令和2年度に最初の改修工事を行いました。

改修にあたり、高効率機器や環境に配慮した新冷媒を採用し、温室効果ガスの排出量を削減することができました。

今後も計画通りに順次更新を進めていきます。



7 地域との連携

室蘭工業大学では、環境改善活動として産学官連携、地域教育（社会学習・教育事業支援、社会人教育）等を行い、地域との連携を推進することで、地域社会の環境改善活動に貢献しています。

7-1 公開講座等の実施について

室蘭工業大学では、地域住民の皆様に学習の機会を提供することを目的として公開講座、サイエンススクール、大学訪問を行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より実施数は少ないものの以下の通り開催しました。

(1) 令和2年度環境関連公開講座実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和3年 3月6日	室蘭イタンキ浜の鳴り砂を科学する！	関根 ちひろ 川村 志麻 塩谷 浩之 葛谷 俊博	10	4	オンラインで開催



7 地域との連携

(2) 令和2年度環境関連出前講義実施状況

開催日	講座・講義名	講師	募集定員	参加人数	備考
令和2年 9月16日	地球環境と水問題	中津川 誠	-	16	
令和2年 9月17日	ガスセンサのしくみ	澤口 直哉	-	12	
令和2年 11月9日	再生可能エネルギー	渡邊 浩太	-	69	オンラインで開催
令和2年 11月10日	光あふれる明るい学び舎	加藤 誠	-	21	
令和2年 11月11日	お湯と水で発電	関根 ちひろ	-	52	
令和2年 11月13日	微生物はどんなところで活躍しているのか？－微生物の優れた能力の応用	チャンヨン Chol	-	18	

7-2 環境に関する兼業の状況

室蘭工業大学に在籍する教職員は、以下の通り環境に関連する他団体の委員等として地域に対して貢献しています。

兼業先の職	兼業先	氏名
環境省 地域連携・低炭素水素技術実証事業「建物及び街区における水素利用普及を目指した低圧水素配送システム実証事業」における外部有識者	環境省	有村 幹治
シェアサイクルの在り方検討委員会委員	国土交通省 自転車活用推進本部事務局	
室蘭市国土強靱化地域計画策定検討部会委員	室蘭市	
千歳市都市計画審議会委員	千歳市	
登別市都市計画マスタープラン改訂委員会委員	登別市	
北海道防災会議地震火山対策部会地震専門委員	北海道	
地震防災対策における減災目標策定に関するワーキンググループ委員		
北海道防災教育アドバイザー		
北海道都市計画審議会委員		
夕張市石炭博物館模擬坑道災害対策有識者会議委員	夕張市	板倉 賢一

7 地域との連携

兼業先の職	兼業先	氏名
登別市景観・みどり審議会委員	登別市	市村 恒士
苫小牧市都市計画審議会委員	苫小牧市	内海 佐和子
北海道大規模小売店舗立地審議会 委員	北海道	
環境審議会委員	室蘭市	亀田 正人
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	川村 志麻
一般国道239号苫前町霧立の地すべり対策に関する技術検討委員会 委員	北海道開発局 留萌開発建設部	
室蘭市緑化審議会委員(会長)	室蘭市	
北海道認定リサイクル製品認定懇談会委員(座長)	北海道	
大規模小売店舗立地審議会特別委員	北海道	神田 康晴
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	岸 徳光
一般国道274号清瀬防災トンネル技術検討会	北海道開発局 室蘭開発建設部	
北海道港湾・漁港の技術開発検討委員会 委員	一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	木村 克俊
奥尻港施設整備意見交換会委員	奥尻町	
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
大島漁港建設環境検討委員会委員長	北海道開発局函館開発建設部函館港湾事務所	
循環資源利用促進設備整備費補助事業評価意見聴取会評価委員	北海道	木幡 行宏
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	
室蘭市大規模盛土造成地変動予測調査業務アドバイザー	室蘭市	
大規模小売店舗立地審議会特別委員	北海道	小林 洋介
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	小室 雅人
伊達市景観計画策定協議会委員	伊達市	武田 明純
伊達市景観審議会委員		
環境省請負業務「令和2年度気候変動適応における広域アクションプラン策定事業北海道地域業務」に関する「気候変動適応北海道広域協議会及び分科会」アドバイザー	環境省	中津川 誠
災害緊急対応委員会委員	公益社団法人土木学会北海道支部	
北海道環境審議会委員	北海道	
鶴川・沙流川(二風谷ダム湖含む)河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局	
鶴川及び沙流川リバーカウンセラー	北海道開発局 室蘭開発建設部	中野 博人
環境審議会委員	室蘭市	
廃棄物最終処分場監視機関委員	旭川市	吉田 英樹
北海道環境審議会委員	北海道	

8 法令関係、環境規制への対応

環境関係法令の遵守について

室蘭工業大学では下記の環境に関する法令、規則等を遵守しています。

区 分	法 律
環境配慮活動関連	環境基本法、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
エネルギー関連	エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）
温暖化防止関連	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）
化学物質関連	消防法、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法、じん灰法、高圧ガス保安法
公害防止関連	騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法
建築物関連	建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）、水道法、下水道法
廃棄物関連	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工規則、北海道循環型社会形成の推進に関する条例、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB特措法）、特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
放射性同位元素関連	放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律、国際規制物質の使用等に関する規則
学校関連	学校保健安全法

[発行年月]
2022年2月

室蘭工業大学施設課
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
TEL 0143-46-5073 FAX 0143-46-5083
Mail:simanage@mmm.muroran-it.ac.jp

